

# 『曇天の昼下がりのアンダンテ』 寸評

- ・ニュアンスに満ちた和声推移が晴れやらぬ情景を暗示
- ・モチーフの可能性を汲み尽くして振幅の大きな作品になった
- ・多用される転回形がやわらかくやさしい響きをもたらして快い
- ・作者の和声感が明確な意思で提示されている
- ・イメージがさまざまに広がるよいタイトル

## 完成度をさらに上げるために

- ・豊かなニュアンスをぜひダイナミックでもつけてみよう
- ・m.9 へ短調がやや唐突に登場 たとえばm.8 b.4



- ・m.12-13の接続も釈然としない たとえばm.12



- ・m.5 b.3 左手のCと右手のC#がどうしてもぶつかる  
メロディを優先して左手をDのオクターヴにしたらどうだろう
- ・m.15 b.2 ドミナントの第3音 (=導音) 重複はさげたい
- ・ほぼすべての小節でベースが四分音符を刻んでいる  
ときに休符を入れてみたりすると作品の表情がガラッと変わる

m.=measure 小節番号のことです。  
b.=beat 拍のことです。

たいへんよくできました。

持麿 勉